別記様式第8号（別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第6関係）

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（令和3年度報告）

和歌山県

1　被害防止計画の作成数、特徴等

県内30市町村全てで被害防止計画が策定されており、うち1町が令和2年度で計画が終期を迎えるため今回の評価報告の対象となっている。
また、令和2年度の評価報告において、4市町、2協議会が達成率70%未満と低調であったため、今回、再度評価を行い、報告する。

2　事業効果の発現状況

本県では、各地域（県振興局単位）に市町村、農協、猟友会など関係機関が参画した協議会を設置し、実施隊等による有害捕獲活動及び追い払い活動、捕獲檻の導入、防護柵の設置等の取組を実施している。
令和元年度から3年度の県下全域の有害捕獲頭数（緊急捕獲事業）は令和3年度のイノシシ捕獲数が豚熱蔓延の影響も受け大幅減少し、3ヶ年合計でイノシシ37,560頭、シカ34,007頭、サル3,366頭となった。
加えて、捕獲圧をさらに高めるには人材育成が重要なため、鳥獣害対策アドバイザー研修、捕獲技術向上研修（銃・わな）などを継続的に開催してきた。
令和3年度の農作物被害額は2.61億円と前年度から約0.3億円を減少したが、イノシシへの豚熱蔓延の影響もあることから、引き続き、農作物被害等の減小を目指し、有害捕獲を中心とした総合的な被害防止対策を実施していく。

3　被害防止計画の目標達成状況

県全体での被害額は平成29年度の3.07億円に対して、令和3年度は2.61億円と減小傾向にある。
市町毎の被害防止計画の達成率については、今年度で計画が終了して評価対象となっている1町のうち1町がほぼ達成（達成率70%以上）となった。
また、今年度に再評価する対象となっている4市町・2協議会がほぼ達成（達成率70%以上）となった。

4　各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 目標値	実績値	達成率(%)	被害面積(ha) 目標値	実績値	達成率(%)	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
和歌山市鳥獣被害対策協議会	和歌山市	H30 R1 R2 R3	イノシシ アライグマ カワウ	①有害捕獲・被害防除 捕獲調査活動、捕獲に必要な機材等 ①有害捕獲・被害防除 捕獲調査活動、捕獲に必要な機材等 ①有害捕獲・被害防除 捕獲調査活動、捕獲に必要な機材等 ①有害捕獲・被害防除 捕獲調査活動、捕獲に必要な機材等	160人／日 一式 175人／日 一式 189人／日 一式 206人／日 一式				・実施隊による捕獲や被害状況、生息状況調査等の活動を実施し、農林水産物被害の軽減に繋がった。	2,500 2,000 2,500 7,000	925 4,329 5,000 10,254	161.7 −19.2 0.0 53.6	1.0 0.3 1.3	0.6 0.6 1.1	144.0 10.0 113.1	イノシシについては、豚熱の影響による生息数が激減したうえ、引き続き捕獲活動や防護柵設置推進を行った結果被害面積・被害金額ともに目標を達成することができた。その他の獣種については、精力的に捕獲を行いましたが、捕獲を上回る生息数の増加がみられるなど、目標とするレベルまでは、被害が軽減しませんでした。今後も鳥獣被害防止について総合的に取り組んでいきます	国庫事業等を積極的に活用しながら鳥獣被害防止に努めており、対策を実施した集落では被害が減少しているとの声がある。 このため、今後も対策を継続されたい。 和歌山市自治会連絡協議会　会長　石井太郎	（改善計画に基づく再評価） イノシシ被害の大幅な減少により目標ほぼ達成となったが、豚熱による影響を考慮し、対策を継続する必要がある。また、アライグマ、カワウ等の被害減少が見られないのは留意すべき点である。 今後も実施隊や緊急捕獲活動を中心に被害軽減対策を継続頂きたい。
和歌山市（和歌山市鳥獣被害対策協議会）	和歌山市	H30 R1 R2 R3	イノシシ アライグマ カワウ	緊急捕獲 イノシシ アライグマ カワウ 緊急捕獲 イノシシ アライグマ カワウ 緊急捕獲 イノシシ アライグマ カワウ 緊急捕獲 イノシシ アライグマ カワウ	 1048頭 244頭 39羽 968頭 230頭 112羽 1220頭 232頭 208羽 217頭 250頭 50羽				・捕獲により目標には届かないが、農林水産物被害の軽減につながった。	2,500 2,000 2,500 7,000	925 4,329 5,000 10,254	161.7 −19.2 0.0 53.6	1.0 0.3 1.3	0.6 0.6 1.1	144.0 10.0 113.1	イノシシについては、豚熱の影響による生息数が激減したうえ、引き続き捕獲活動や防護柵設置推進を行った結果被害面積・被害金額ともに目標を達成することができた。その他の獣種については、精力的に捕獲を行いましたが、捕獲を上回る生息数の増加がみられるなど、目標とするレベルまでは、被害が軽減しませんでした。今後も鳥獣被害防止について総合的に取り組んでいきます。	国庫事業を積極的に活用しながら鳥獣被害防止に努めており、対策を実施した集落では、被害が減小しているとの声がある。 このため、今後も対策を継続されたい。 和歌山市自治会連絡協議会　会長　石井太郎	（改善計画に基づく再評価） イノシシ被害の大幅な減少により目標ほぼ達成となったが、豚熱による影響を考慮し、対策を継続する必要がある。また、アライグマ、カワウ等の被害減少が見られないのは留意すべき点である。 今後も実施隊や緊急捕獲活動を中心に被害軽減対策を継続頂きたい。

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 目標値	実績値	達成率(%)	被害面積(ha) 目標値	実績値	達成率(%)	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
御坊市（御坊市鳥獣害防止対策協議会）	御坊市	H30 R1 R2 R3	イノシシ シカ サル アライグマ タヌキ アナグマ カラス	緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ タヌキ アナグマ 緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ タヌキ アナグマ 緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ タヌキ アナグマ 緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ タヌキ アナグマ	230頭 27頭 4頭 122頭 16頭 44頭 253頭 41頭 4頭 149頭 33頭 62頭 227頭 48頭 6頭 131頭 49頭 147頭 149頭 86頭 1頭 133頭 73頭 110頭				＜H30＞ アライグマの捕獲頭数を前年55頭から122頭へと大幅に伸ばす事が出来た結果、被害金額が前年度2,670千円から2,600千円（▲70千円）へと減少した。 ＜R1＞ 前年よりも捕獲数が増加したが、基準年と比較し被害金額が950千円増え3,620千円となった。サル・シカによる水稲への被害やイノシシの花きへの被害など、新たな農作物被害が複数報告されたことが、被害金額の大幅増になった。 ＜R2＞ アナグマの捕獲数が前年に比べ2倍以上となった。前年より詳細に被害状況を把握するため、農家への直接聞取調査を行ったところ、新たな農作物被害が複数報告され、被害金額は基準年と比較し3,780千円増の6,450千円にのぼった。 ＜R3＞ 前年と比べ豚熱の影響のためかイノシシの捕獲数が35%減少した。一方、ニホンジカは2倍近い捕獲頭数となった。前年と同様農家への聞き取りで農作物被害調査を行い、被害金額は基準年と比較し1,720千円増の4,390千円にのぼった。	獣種別目標設定なし 2,500	1,220 910 1,530 460 40 0 190 4,350	−988.2				農作物被害額は前年度よりは減少したものの、目標値の達成には至っていない。令和3年度は豚熱の影響もあり、イノシシは年間300頭を目標の半分の捕獲数にとどまり目標達成できなかった。 一方、ニホンジカの捕獲数が急増した。サルは年20頭としたが、捕獲が難しく、捕獲実績が1頭にとどまり、水稲や果樹への被害も報告された。捕獲だけでなく、侵入防止柵の設置、追い払い活動を強化し被害減少につなげたい。アライグマは捕獲数が減少傾向にはないため、農作物被害軽減のために今後も捕獲活動に力を入れていきたい。 他の獣種についても捕獲が十分でないため、引き続き有害捕獲の取組を進め被害金額の減少につなげたい。	令和3年度はイノシシの捕獲実績が減少したようであるが、ニホンジカの捕獲数が2倍近く増加しているとのことなので、引き続き捕獲に励んでいただきたい。 また、山に近い農地や園地では、ニホンザルによる被害が寄せられているので、捕獲活動に加え、追い払い活動等も強化し、被害減少に取り組んでもらいたい。アライグマ、アナグマ等の有害鳥獣が市街地近辺で出没している話も聞くので、檻の貸し出しを行う等市の方でも柔軟な対応をお願いしたい 御坊市農業委員会　会長　和佐憲道	（改善計画に基づく再評価） 被害の調査方法をR2年度に見直し、R2の被害額が6，450千円と大幅に増加し、R3は4,390千円とR2と比べて減少したが、目標や基準年と比べて大幅に増加し、目標未達となった。 調査方法の変更による影響は多分にあるが、特にシカ、サル、アライグマで増加がみられ、サルの被害増加が顕著なため、同じ日高管内でも先んじて被害の発生していた他地域の対策を踏まえ、対応に当たって頂きたい。
田辺市鳥獣害対策協議会（*構成員古川銃砲店の事業も含む）	田辺市	R1 R2 R3	イノシシ シカ サル アライグマ カラス・ヒヨドリ カワウ・ウミウ その他	①有害捕獲・被害防除 実施隊活動による捕獲・追払い活動 デジタル無線機一式の購入 追い払い用機材の購入 講演会の開催 ②田辺射撃場整備 ①有害捕獲・被害防除 実施隊による捕獲・追払い活動 ②田辺射撃場運用 ①有害捕獲・被害防除 実施隊による捕獲・追払い活動 ②ICT等新技術活用 ほかパトの導入　1式 ③田辺射撃場運用	43回 31回 36回 1基	田辺射撃場の管理主体は株式会社古川銃砲店（田辺市鳥獣害対策協議会構成員）	R2.3.19	R2 62.4% R3 76.1%	＜R1＞ 田辺市鳥獣被害対策実施隊による捕獲・追払い活動を開始したことにより、有害鳥獣による農作物被害の防止が図られた。令和元年度は計43回、延べ306人の隊員による活動を実施し、サル4頭、シカ7頭の捕獲実績があった。 県内唯一の射撃場施設である田辺射撃場について、田辺市及び関係市町村との連携のもと、引き続き銃猟者の育成・確保、捕獲技術の向上に資する施設として存続出来るよう、必要な整備を行った。 また、鳥獣被害防止対策の一環として、当地域における有害鳥獣の生息状況や被害状況、またその対策について認識を深めるための研修会を開催し、農家をはじめ猟友会、JA関係者などに対し、広く周知することができた。 上記事業に取り組むことにより、田辺市の有害鳥獣捕獲事業の効果と合わせて被害防止計画の基準年（H28）においては36,901千円であった被害額が、令和元年度には34,729千円まで減少する結果となった。 ＜R2＞ 田辺市鳥獣被害対策実施隊による捕獲・追い払い活動により、有害鳥獣による農作物被害の防止が図られた。令和2年度は計31回、延べ290人の隊員による活動を実施し、イノシシ4頭、シカ3頭の捕獲実績があった。この活動により、田辺市の有害鳥獣捕獲事業の効果と合わせて令和2年度の被害額は34,350千円となり、前年比で379千円の被害額減少となった。 田辺射撃場の経営状況については、コロナ禍の影響により射撃大会中止等の影響もあり、計画対比38%減の912名の利用実績となっているが、令和元年度にコロナ禍の影響で中止となった銃技能講習が令和2年度に振り替えられたため、令和2年度の収支は黒字となった。 今後も猟友会を中心に積極的な利用の呼びかけを行い、利用実績を改善していく。 ＜R3＞ 田辺市鳥獣被害対策実施隊による捕獲・追い払い活動により、有害鳥獣による農作物被害の防止が図られた。令和3年度は計36回、延べ320人の隊員による活動を実施し、イノシシ3頭、シカ2頭、サル1頭の捕獲実績があった。この活動と豚熱の影響により、田辺市の有害鳥獣捕獲事業の効果と合わせて令和3年度の被害額は32,989千円となり、前年比で1,361千円の被害額減少となった。 田辺射撃場の経営状況については、令和3年度もコロナ禍の影響により射撃大会中止等の影響もあり、計画対比24%減の1,113名の利用実績となった。昨年と比べると、コロナ禍の影響が弱まってきているため、来年以降利用率は、向上していくと考える。 今後も猟友会を中心に積極的な利用の呼びかけを行い、利用実績を向上させていく。	4900 7,800 13,100 620 4,165 2,865 0 33450	4,012 7,834.0 13,993.0 922.0 5,573.0 5,000.0 655.0 37989	217.3 97.3 68.4 −218 −2 0 46.3	6.4 10.2 5.2 1 1 0 23.5	4 11.2 6.3 1 1 1 24.6	307.7 47.4 0.0 0 75.6	田辺市鳥獣被害対策実施隊による被害防止活動を開始したことにより、今まで対応が難しかった鳥獣被害対策（特にサル対策）を行えるようになり、農作物被害を減少させることに繋がっている。 しかしながら一方で、活動における銃猟者、わな猟者のより一層の役割分担の明確化や、特定の隊員への負担の集中を防ぐための担当地区の割り振りなど、改善点も顕在化してきているため、今後は、こうしたことを解消しながらより効果的な取組にしていく必要がある。 県内唯一の射撃場施設である田辺射撃場の整備により、新規銃猟従事者の確保・捕獲技術向上に繋がっている。また、猟期前射撃練習の場としても利用されており、狩猟期間中の銃猟事故を未然に防ぐことにも繋がっている。 さらに、鳥獣被害対策に関する講演会の開催により、地域住民、農業者への意識啓発を行ったことで、地域ぐるみの鳥獣害対策に取り組む意欲を向上することができた。 田辺射撃場の経営についてもコロナ禍の影響により依然利用実績が伸び悩んでいるが、令和3年度は利用率改善傾向へと繋がっている。今後も猟友会を中心に積極的な利用を呼びかけていく。 被害金額については、目標値が基準年（平成28年）の約28%減と高い設定であったが、農家をはじめとする地域住民、猟友会、JA等関係機関との連携、協力と豚熱の野生イノシシへの感染が大きく影響により、令和3年度には32,989千円と3,912千円減少となった。 今後は、これまでの事業を継続実施しながら、新たな取組としてICT技術の活用を組み合わせた被害防止にも取り組んでいく。	田辺市鳥獣被害対策実施隊活動による鳥獣被害防止活動を実施した地域では被害減少の声がある。今後も継続して講演会や有害捕獲を実施し、地域全体で有害鳥獣対策に取り組んでいくことが重要になると考える。 田辺市農業委員会　会長　瀧本和明	（改善計画にもとづく再評価） 特定地区において、ICT導入活動に取り組まれるなど、積極的に新しい技術を導入した捕獲促進に取り組まれ、実施隊活動も継続的に行われ、また田辺射撃場もコロナの影響がある中、利用率が向上し、捕獲技術向上の場と活用されている。その結果、被害額、被害面積ともアライグマ以外の獣種で減少傾向であり、目標をほぼ達成された。 今後も継続して活動に取り組んで頂きたい。

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 目標値	実績値	達成率(%)	被害面積(ha) 目標値	実績値	達成率(%)	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
田辺市（田辺市鳥獣害対策協議会）	田辺市	H30 R1 R2 R3 	イノシシ シカ サル アライグマ カラス ヒヨドリ カワウ ウミウ	緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ カラス カワウ 緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ カラス カワウ 緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ カラス カワウ 緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ カラス カワウ ハクビシン	868頭 2,710頭 206頭 440頭 450羽 30羽 1,431頭 2,478頭 222頭 535頭 195羽 12羽 1,476頭 2,214頭 227頭 654頭 405羽 21羽 1,375頭 2,616頭 278頭 527頭 425羽 21羽 9頭				猟友会の協力の下、有害鳥獣捕獲に取り組んだ。被害の大きいイノシシ、シカについては捕獲計画数に近づく実績であった。ニホンザルについてはICT大型わなを活用した捕獲も併せて実施している。カワウ等については捕獲に取り組んでいるものの、被害の大幅な減少には至っていない。また、R3年度は新たに有害捕獲対象としてハクビシンが追加され、下半期のイノシシに対しても猟期中の有害を許可したため、有害捕獲補助金対象となった。しかし、豚熱の影響が大きく、イノシシの捕獲数は伸びなかった。	4900 7,800 13,100 620 4,165 2,865 0 33450	4,012 7,834.0 13,993.0 922.0 5,573.0 5,000.0 655.0 37989	217.3 97.3 68.4 −218 −2 0 46.3	6.4 10.2 5.2 1 1 0 23.5	4 11.2 6.3 1 1 1 24.6	307.7 47.4 0.0 0 75.6	猟友会の協力を得ながら、有害捕獲、管理捕獲、狩猟、またアライグマについてはJAの協力のもと捕獲を実施した。捕獲従事者については、農家の狩猟免許取得により、わな猟従事者は増加傾向にある。一方、銃猟従事者については田辺射撃場の整備により新規の免許取得者も増えたが、全体的には減少傾向にある。 被害金額の目標値が基準年（平成28年）の約28%減と高い設定であったが、関係機関及び猟友会、地域住民等の協力により、令和2年度には34,350千円と約2,500千円減少することができた。しかしながら、生息頭数、被害金額の大幅な減少までは至っていない。これは、有害鳥獣の繁殖が捕獲圧を上回ったこと、農繁期の捕獲数が停滞することも被害を抑えられていない一因であると考えられる。令和3年度は、豚熱の野生イノシシへの感染が大きく影響し、32,989千円と昨年と比べ、1,361千円減少した。今後も継続して市、猟友会、地域住民が一体となり、鳥獣被害防止に総合的に取り組んでいく。	被害金額は目標値に至ってはいないが減少傾向にあり、捕獲数も目標値に近づいてきていることから被害防止計画の実施については一定の効果を上げているものと考える。 しかし、サルに関しては、捕獲が難しいこともあり、被害額は改善されているが、被害面積については大きな改善がされていない。今後は、サル被害を中心に改善をお願いしたい。 田辺市農業委員会　会長　瀧本和明	（改善計画にもとづく再評価） 猟期中にイノシシの有害捕獲許可をされるなど、捕獲の強化に取り組んでこられた結果、目標をほぼ達成された。 より一層被害額の低減を目指すため、サルについては、県の管理捕獲と連携した対応をお願いする。 今後は被害軽減の見られないカワウ等の対策も強化いただきたい。
上富田町（上富田町鳥獣害防止対策協議会）		R1 R2 R3	イノシシ ニホンジカ ニホンザル アライグマ アナグマ ハクビシン スズメ	緊急捕獲 イノシシ ニホンジカ ニホンザル アライグマ 緊急捕獲 イノシシ ニホンジカ ニホンザル アライグマ 緊急捕獲 イノシシ ニホンジカ ニホンザル アライグマ	290頭 208頭 4頭 35頭 374頭 210頭 6頭 69頭 247頭 244頭 12頭 42頭				イノシシの捕獲数はR3年度で247頭、ニホンジカ244頭であり、R2年度と比べるとイノシシは減少したが、ニホンジカは34頭増加した。 R3年度に豚熱感染個体が町内でも確認されたため、今後、イノシシの捕獲数は減少していくと考えられる。 また、捕獲によって、ある程度の個体数調整ができたと考えられる。	1045 − 55 − − − 35 1135	618.0 624.0 0.0 35.0 0.0 0.0 0.0 1277	455.8 523.1 369.2 2.7	0.99 − 0 − − − 0 1.08	0.6 0.5 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 1.11	311.8 350.0 500.0 85.0	協議会構成員等関係機関および猟友会等の協力により、令和元年度～令和3年度の被害防止計画目標（被害面積）を達成することができた。 しかし、年々ニホンジカの捕獲数が増加しており、生息域が拡大していることが考えられる。 被害軽減に繋げるには、防護と捕獲を併せて取り組むことが重要であり、対策の進んでいない地域については啓発を進め、鳥獣を寄せ付けない環境作りを推進していく必要がある。	有害捕獲の捕獲頭数が増加しているので、今後も有害捕獲活動を継続し、個体の軽減に繋げていってほしい。 また、免許所持者の高齢化が進み、減少傾向にあるため、農家自身が捕獲・防除を行うことが重要になってくると考えている。狩猟免許所得等の周知に努め、新たな担い手を勧誘、育成に努めてもらいたい。 上富田町農業委員会会長　山本　善吾	イノシシ、サルについて捕獲活動に取り組まれた結果、被害が減少し、目標はほぼ達成された。 今後はニホンジカの被害が増加しているため、さらに捕獲強化に取り組んで頂きたい。

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 目標値	実績値	達成率(%)	被害面積(ha) 目標値	実績値	達成率(%)	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
すさみ町 （すさみ町鳥獣被害対策協議会）	すさみ町	H30 R1 R2 R3	イノシシ シカ サル アライグマ	緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ 緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ 緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ 緊急捕獲 イノシシ シカ サル アライグマ	 79頭 508頭 90頭 24頭 165頭 549頭 73頭 27頭 371頭 391頭 102頭 60頭 65頭 534頭 58頭 26頭				イノシシの捕獲数はR3年度で247頭、ニホンジカ244頭であり、R2年度と比べるとイノシシは減少したが、ニホンジカは34頭増加した。 R3年度に豚熱感染個体が町内でも確認されたため、今後、イノシシの捕獲数は減少していくと考えられる。 また、捕獲によって、ある程度の個体数調整ができたと考えられる。	65 20 26 1 112	15 2.0 59.0 0.0 76	484.6 357.1 −450.0 200.0 233.3	0.4 0.1 0.2 0.0 0.72	0 0.0 0.5 0.0 0.54	455.6 425.0 −480.0 − 200.0	捕獲事業等により、H30～R2までサル被害が逓減したが、R3は被害が増大した。また、R3は豚熱の影響により、イノシシの捕獲数及び被害が激減した。シカについては年度ごとに増減はあるものの、被害を十分に減少させるまでには至らなかった。今後も継続して、鳥獣被害対策実施隊による見回り及び被害調査の強化を図る。	有害被害は年々増加しているが、それに伴い捕獲事業による捕獲数も増えており努力して取り組んでいるように思う。また、実施隊による檻の設置や貸し出しなど積極的に行っているので、引き続き取り組んでもらいたい 鳥獣保護管理員　柾木渉	（改善計画に基づく再評価） イノシシ、シカの被害について捕獲活動を進めた結果、目標をほぼ達成した。今後も継続して捕獲にとりくまれるとともに、サルの対策についても強化頂きたい。
和歌山県	和歌山県	R3	イノシシ シカ サル アライグマ等	・ニホンザル効率的捕獲のための行動調査 ・イノシシ効率的捕獲のための個体数推定調査（R2補正） ・カモシカ生息状況調査 ・わな捕獲技術向上研修 初級研修 中級研修 実践研修 ・銃猟捕獲技術向上研修 ・和歌山県農作物鳥獣害アドバイザー研修 ・狩猟の魅力研修 体験研修	一式 4回 4回 1回 4回 6回 5回				・イノシシは個体数推定調査、サルはGPSによる生息状況・行動調査を行い、その結果を新たに策定した県第二種特定鳥獣管理計画に反映し、また、有害捕獲の推進等に活用した。 ・カモシカの加害状況把握を行い、防護等による被害対策の推進を行った。 ・わな捕獲技術向上研修では、85名（初級研修48名、中級研修33名、実践研修4名）が捕獲の基礎知識及び技術の習得を行った。 ・銃猟捕獲技術研修では、22名が安全な狩猟・有害捕獲技術の習得を行った。 ・和歌山県農作物鳥獣害対策アドバイザー研修では、12名の専門的な知識を有する人材を育成した。 ・狩猟の体験研修では5回20名の参加があり、狩猟の魅力を伝え、新規狩猟者の育成・確保を行った。									

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
										被害金額（千円）			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率(%)	目標値	実績値	達成率(%)			

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
　2：都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
　3：事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
　4：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
　5：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5　都道府県による総合的評価

県全域において有害捕獲、防護柵の整備、捕獲の担い手確保・育成に取り組んできた結果、令和3年度の被害額2.61億円と令和2年度2.91億円に比べて被害額が減少し、平成27年度3.43億円からは減少傾向にあるものの、その大きな要因であるイノシシの被害額の急激な減少はイノシシの豚熱蔓延による影響が大きいと思慮されるため、今後の動向を注視していく必要がある。
また、県では令和3年度末に令和4～8年度を対象期間としたイノシシ、ニホンジカ、ニホンザルに対する第二種特定鳥獣管理計画を策定している。
今後は、その内容を踏まえ、推定生息数が増加傾向にあるニホンジカの捕獲強化に取り組むとともに、各鳥獣種別の動向を踏まえ、捕獲の推進をはかる。
また、各地域の状況を踏まえながら、市町村や関係団体と連携し、捕獲、防護、担い手の確保・育成、実施隊活動の推進等により、ソフト・ハード両面から被害軽減対策を推進していく。